

東アフリカの人名

中 沢 秀 樹

ナイロビ周辺に住むキクユ族（ニジェール・コルドファン語族ベヌエ・コンゴ語派）では、Wambugu, Kariuki, Wanjiru, Nyombi, Mwangi, Kamau などの名前をよく耳にする。現地の友人から聞いた話では、これらの名前は祖先代々受け継がれてきたもので、全体の名前の数はあまり多くないらしい。一説によると、Gikuyu と Mumbi という神の子どもの名前がそのまま引き継がれているのだという。名前にはもちろん男女の区別がある。たとえば、女性の名前には Wa- のつくものが多い。また、キクユ族には二代目ごとに名前を繰り返してつける習慣がある。自分の子どもに対して自分の親の名前をつける。つまり子どもたちの名前はその祖父母たちの名前と同じということになる。友人は、だから自分の両親と妻の両親の名前がそっくり受け継がれるように四人の子どもが欲しいということだった。でも、もし五人以上の子どもの生まれたらどうするのか、この点については聞きもらした。

キクユ族には、本来の姓というものが無い。その代わりに父親の名前を姓としている。たとえば、Wachera Kinyanjui という名前ならば、個人名は Wachera で、Kinyanjui は父親の名前である。また、キリスト教徒で洗礼名を持っているならば、たとえば Mary を先頭につけて、Mary Wachera Kinyanjui を正式名として使う。これは女性の名前の例だが、男性も同様で、たとえば Peter Njoroge Kinyanjui のようになる。ただし、女性の場合には、結婚すると夫の父親名が姓として使われる。

キクユ族の名前のつけ方が、他の民族にもあてはまるものかどうかはわからない。少なくとも、ベヌエ・コンゴ系以外の民族では、かなり違う基準で名前をつけているらしい。たとえば、ケニヤ西部のルオ族（ナイル・サハラ語族）では Atieno, Odhiambo のように A-（女性名）や O-（男性名）で始まる名前が多い。これらは誕生のときの時間帯を表すことばがつけられているのだという。アフリカ・アジア語族系、インド・ヨーロッパ語族系の人々は、東アフリカでも彼ら固有の民族名をそのまま踏襲している。慣れた人なら、名前を見ただけでどの民族の人かを言い当てることができるという。しかし、外国人であるわたしたちにとって、その識別はあまりかんたんではないようだ。 [なかざわ ひでき 学習研究社]